

CAP 広島だより

< 漢字ナンクロ >

	1	息		小	4	
完	2		感	5		3
成		6		6	理	学
	2	3	5		由	
信		体		不		日
4	身		大	1	吉	日

同じ数字のマスには同じ漢字が入ります。すでにマスに入っている漢字をヒントにしてマスを埋めて下さい。
対応表を完成させ、二つの四字熟語を答えて下さい。

対応表

1	2	3	4	5	6	7	8
						信	由

回答欄

1	4

3	7

3	8



発行：特定非営利活動法人CAP広島 〒738-0011 廿日市市駅前 1-3 号

TEL・FAX 0829-20-5114

e-mail cap-hiroshima@viola.ocn.ne.jp

HP <https://caphiroshima.org>

広島市教育委員会主催
防犯教室『防犯指導者講習会』 CAP 教職員ワーク実施報告
宇原 敏子



今から 16 年前の 2005 年 11 月 22 日、広島市矢野西小学校の 1 年生だった木下あいりさんが、下校途中この地区に居住する男性によって殺害されるというとても痛ましい事件が起こりました。学校からの帰宅途中で起きた事件だったことで“地域で子どもたちを守ろう”との地域住民の思いが見守り活動として広がりました。

広島市はこの事件を受け、子どもの安全を考えて行動する日として毎月 22 日を“子ども安全の日”とし、学校、家庭、地域において様々な取り組みが始まりました。とりわけ 11 月 22 日は事件の風化を防ぐとともに、全小学校で安全な行動について学習する「防犯教室」や「不審者対応避難訓練」の実施などを行い、児童の自己防衛意識の高揚が図られています。（広島市教育委員会 HP より抜粋）

CAP の歴史を振り返ると、CAP プログラムが誕生した経緯には、1978 年アメリカ合衆国オハイオ州コロンバスで起きた小学校 2 年生の女兒へのレイプ事件がきっかけにあったことから、まさに広島でも同じような事件をきっかけに子どもを大切に思う“おとな”の行動が始まりました。広島市教育委員会からの CAP への依頼はその行動の 1 つと言ってもいいのではないのでしょうか。2007 年から小学校教員を対象にした『防犯教室』の講師として当法人が依頼を受け、今年で 14 年目を迎えました。



毎年、防犯指導者講習会に参加された先生方からは「防犯と思って参加したら“子どもの人権”の話だった」とビックリされると同時に「子どもとの向き合い方を考えさせられた」との感想を多くいただきます。

講習会を教職員向けワークショップと位置づけ、私たちが大切にしている CAP の理念『子どもの人権・エンパワメント・コミュニティ』を柱にしながら話を組み立てています。子どもへの暴力は子どもの心と身体を傷つけることであり、人権侵害行為であること。暴力防止の基本は“子どもを信じる”ことから始まるのだと先生方に伝えています。

「子どもに CAP をしてほしい。」という声をよく聞きます。確かに全ての子どもたちに CAP を届けたいという思いは創設当時の私たちの願いです。しかし、CAP プログラムを子どもだけに実施しても暴力防止にはなりにくいのです。

子どもの人権が保障されるためには、子どもの周りにいる“おとな”にこそ CAP を伝える必要があります。“おとな”も自分の人権を大切にし、“おとな”が子どもの人権を大切に。そうした“おとな”を増やさなければ暴力は防止できません。なぜなら社会の中で力を持っているのは“おとな”だからです。

日常を共にするおとなが“あなたは大切な人だよ”“暴力に遭っていい人なんていない”“自分の人生を安心して自信をもって自由に生きていいんだよ”と子どもたちに伝えることこそ、目の前の子どもを尊重し肯定することであり、暴力防止に有効です。

学校の先生方に『防犯教室』を通じて CAP を知っていただくことの意味を感じています。

『自分は大切な人間なんだ』と自分を大切にすることが増えることは子ども自身が自分の人生に誇りをもって生きていくことに繋がります。自分を大切にできる子は、目の前の友だちも大切にできます。全ての教育の基本がそこにあると言っても過言ではないと思っています。



講習会に参加された先生方の感想をお伝えします。

★安全教室という外野からの防犯ととらえがちでしたが今回子どもの内側（子どもの意識）からの視点だったことが新鮮でした。とても大切で重要なことだと感じました。「子どもの話をしっかり聞く」「一緒に考える」このスタンスは大切だと思いました。

★子ども一人ひとりに人権がある。3つのキーワード安心自信自由。権利、人権について。「いや」いやと感じたらいやと言ってもいいんだよ！「逃げていい」だれかに話す「助けてください」。子どもを信じる。子どもの話や相談を聴いて寄り添える9月からにしたいです。

★家庭内で虐待を受けている子が自分は助けてもらえない抜け出せないと感じたとき、本当は大人への信頼を失くし絶望的になるのではないかと案じています。児相や警察など本当に子どもに何か起こらないと救い出せないのか…と学校でできることの限られた力を痛感しています。しかし「権利」を知ることや「自分は大切にされる存在だ」ということを学ぶことは変化をおこす一歩になる大切な教育だと感じました。

★防犯教室の幅広さ、大切さを再認識しました。日頃から児童の接し方についても、今一度見直したいと思います

・・・ アンケート結果 ・・・



・参加教員数 139名 ・アンケート記入者 136名(99%)

①ご自身が子ども時代に、CAP 子どもワークショップを経験されたことがありますか？

・はい 3名(2%) ・いいえ 133(98%)

②これまで受け持たれたクラスで、CAP 子どもワークショップを経験されたことがありますか？

・はい 12名(9%) ・いいえ 124名(91%)

③CAP ワークショップを学校で導入したいと思いますか？

・はい 124名(91%) ・いいえ 12名(9%)



こどもの笑顔を 増やすために 私たちにできること

中林 仁恵

“こどもの笑顔と安心、安全な地域づくり！”ネット ワーク
に、CAP 広島から役員として参画して感じたことをお伝えした
と思います。



広島県には様々な子ども支援の活動をしている団体があります。“こどもの笑顔と安心、安全な地域づくり！”ネットワーク(以下ネットワーク)は、参加団体が緩やかにつながるために作られました。私たちCAP 広島は、ネットワークの立ち上げから参画しています。私たちCAP 広島は防止活動ですが、子どもたちの声に耳を傾ける活動、直接子どもたちに関わっている活動、保護者にもかかわっている団体、治療している団体、ケアをいする団体など現在は11 団体が参加しています。

CAP 広島設立20周年もかねて、2015年に尾木ママこと尾木直樹氏をお招きし、講演会を開催するための実行委員会にCAP 広島から5人のメンバーが加わったのが最初の活動でした。当日は、多くの会員の方にもお手伝いをお願いしましたね。覚えておられますか。以来6年活動を続けてきました。

昨年から続いている新型コロナウイルス感染拡大により、10代のこどもの自殺、貧困、児童虐待数が過去最大になっていると報道されています。今年度、ネットワークでは、コロナ禍で各団体の活動の中から見える子ども達の状況を知るため各団体へアンケートを、また子ども達へのアンケート(NPO 法人子どもコミュニティネット広島協力)を実施しました。各団体で、その状況を共有し、次年度のイベントにつながるような意見交換会をするため、9月11日の総会後に、意見交換会をZOOMで行いました。一部を紹介します。(アンケート結果などのデータは事務所にあります。)

⇒Q みんなの活動や感じていること

・子どもたちと話しながら食事ができない為、お弁当を渡している。子どもだけに渡すと親が食べてしまい、子どもに渡さないことがあるので、家族の人数分を作って渡しています。食べられない子どもが増えていると感じています。

みんな大変な状況である。影響はものすごく出ている。もともとある家庭環境の差が、「みんな大変だった」ということで、黙殺されるのが恐ろしい。

下部に「活動報告」を入れていますが、ネットワークがどんな活動をしているのか少しでもわかってもらえたでしょうか。

コロナ禍で、CAP 広島でも zoom 会議が増えましたね。直接会って話せることが一番うれしいですが、会場まで遠いので行きにくい方もおられます。ネットワークの参加団体は、県内全域に所在しています。Zoom を使うことで、もっと気軽に会えることが出来るようになり、これからは会の代表者だけでなく多くの会員が意見を出し合い、定期的に会を重ねていくことでネットワークとして何ができるのか見えてくると思います。ゆるやかに繋がり、一步一步進みたいと思います。

多くの方は、自分の仕事を持ち、自分の活動している団体があり、その上ネットワークの活動をしておられます。本当に大変だと思います。ネットワークでつながることで、自分たちの活動だけでは見えていなかったことが見えてきます。子どもたちには、あらゆる角度から大人が本気で関わる必要があります。そして、まずは自分たちの活動をしっかり行い、ネットワークで共有し、また自分たちの活動に生かしていくことで、子どもたちの笑顔を少しずつでも増やすことに繋がればよいと思います。

ネットワーク HP

<https://kodomoegaonet2015.wixsite.com/mysite-1/home>

参加団体(2021年9月現在)

- ・NPO 法人子どもコミュニティネットひろしま ・NPO 法人ひゅーるぼん
- ・NPO 法人食べて語ろう会 ・NPO 法人広島自閉症協会
- ・NPO 法人広島聴覚障害者福祉会放課後デイサービス手と手の広場
- ・杉野小児科医院 ・NPO 法人 CAP 広島
- ・NPO 法人子ども虐待ホットライン ・NPO 法人ピピオ子どもセンター
- ・NPO 法人広島チャイルドライン子どもステーション(認定 NPO 法人)
- ・公益社団法人広島県社会福祉士会子ども家庭支援委員会



“子どもの笑顔と安心、安全な地域づくりネットワーク！”活動報告

- 2015年2月 尾木直樹さん講演会『子どもの笑顔と安心を～尾木ママと一緒にいじめについて考えよう』開催
「子ども支援の地域づくり宣言」を行う。
- 2015年9月 仁藤夢乃さん講演会『大人が知らない子どもの事情』。
- 2016年9月 石川結貴さん講演会『消えた子どもたち～無縁化する子どもをどう支えるか』
ナイトスタディーツアー(夜回り)2回実施
- 2017年9月 田中聡子さん講演会『子どもの笑顔を奪う貧困』
NPO 法人ひゅーるぼん見学 NPO 法人 食べて語ろう会 参加
- 2018年9月 安川雅史さん講演会 シンポジウム「ネットにつながる子どもたち ～子どもたちが「今」も求めているもの～」
- 2018年11月 「私たちは買われた展」開催
- 2019年9月 シンポジウム「私たちにもできる虐待防止」基調講演 平野裕二氏
- 2020年9月 意見交換会「コロナ禍の子どもたち」